

平成29年度

役員・支部長研修会 意見交換会



挨拶をする
吉田組合長



JA東京中央会企画調整室
岸 康之室長が講演



参加者全員でJA綱領唱和



信用事業譲渡について説明

2月1日、台東区上野の東天紅で「役員・支部長研修会 意見交換会」を開催しました。当日は、常勤・非常勤役員、各地区の支部長、各分会組織の代表者、支店長ら169人が一堂に会しました。

吉田進組合長は冒頭の挨拶で「多くの先人の足跡から地域農業や協同組合にかける思いと活動を振り返り、JAの原点や役割などを検証し、今後の都市農業やJA東京スマイルの在り方を共に考える一つの機会」と話しました。

今回の研修会は「みんなで作ったJAと東京農業」をテーマに掲げ、JA東京中央会企画調整室 岸康之室長に講演をお願いしました。

意見交換会ではJAグループの実情やJA東京スマイルの状況を報告し、各事業の取り組みに対して理解を深めていただきました。

また、横田総合企画常務が信用事業譲渡について総合JA、営農経済JA(信用事業代理店化)、営農経済特化JA(信用事業連合会支店化)の3つの選択肢について説明し、組合員からは「できれば総合的な形で持って行ければ一番良いと思うが、JAとして最終的にどのような方向性を考えているか?」との設問があり、吉田組合長は、「総合JAとして頑張っていく決意で取り組んでいる」と答えるなど活発な意見交換が行われました。

このほか、平成31年度より実施される公認会計士監査についても事業ごとに内部統制の整備を進めており、対応準備を行っている旨を説明しました。

JA教育文化活動セミナーを開催しました

セミナー会場の様子

2月23日と27日の2回で、全役職員を対象にJA教育文化活動セミナーを行いました。このセミナーを通じ農協改革やJA自己改革について役職員が正しい情報や意識を持つことを目的としており、当日は家の光講師 板野光雄氏が「正念場を迎えたJAと教育文化活動の重要性」～「農協改革」の真の狙いに対抗するために～と題し講演しました。

板野氏は「農協改革」でJAが置かれている状況や政府・財界・アメリカの狙いを説明したほか、「JAは組合員をお客さま・顧客としてとらえるのではなく、組合員を「出資者」「利用者」「運営者」として認識し、CS(顧客満足度)を高めるのではなく、MS(メンバー満足度)を追求すべきである。これからのJAにとって若い世代の参画や地域住民・消費者の応援、女性パワーの発揮が必要不可欠であり、「新しい親密な関係性」を築く活動として教育文化活動をJA全体で取り組むべきだ」と話しました。

